

## IV 記録の収集

アーカイブ特別委員会では、東日本大震災の記録を残すという設立の目的を達成するために、平成25年度に被災地を担当していた普及指導員の皆さんを対象としたアンケート調査を実施し、平成27年度には、岩手県、宮城県及び福島県での聞き取り調査を実施したが、同時にいろいろな形で記録され保存されている資料を収集することをめざした。

すでに、「普及指導員へのアンケート調査結果」で報告したとおり、アンケートの実施過程で、4普及センターから以下の資料提供があった。

### 岩手県大船渡農業改良普及センター

東日本大震災津波 普及活動の記録（平成24年9月）

### 岩手県奥州農業改良普及センター

管内牧草の放射性セシウム汚染実態の把握と生産対策の検討

牧草地の除染作業に係る「除草剤の播種同日処理技術」の取組み支援（平成24年度普及実績報告）

除染困難牧草地の牧草の放射性セシウム低減手法の検討（平成24年度普及実績報告）

畦畔草における放射性セシウム汚染の実態把握と吸収低減対策の検討（平成24年度普及実績報告）

### 宮城県大河原農業改良普及センター

津波復興コマツナ仙台市場にカムバック（平成23年）

### 茨城県稲敷地域農業改良普及センター

浸種した粳の保存について（平成23年3月14日）

田植え作業を延期するための育苗管理について（平成23年3月17日）

田植えが遅れた場合の育苗・圃場管理について（平成23年3月31日）

田植えが遅れた水稻の病虫害防除（平成23年6月14日）

大震災後の稲敷市における水田農業復興に向けた普及活動

また、平成27年度は、前述のとおり、被災地を担当した普及指導員からの聞き取りに、併せて、震災復旧に向けた活動記録の収集をこころがけたが、力が足りず収集を進めることができなかった。

ただ、聞き取り調査中の発言の中だけでも、次のとおりの所在情報が寄せられている。

### 岩手県大船渡農業改良普及センター

普及センター内での情報共有の方法として、エクセルファイルの形で「いつ」、「誰と」、

「どんな話をしたのか」、「課題は何か」を入力して、所員が共有、そのエクセルファイルは公開していないが、普及センターのサーバーには残っているはず、写真もそのまま格納しているとのことであった。

また、支援物資として野菜の種が送られてきたことを契機とした野菜づくりの活動について、2年目から「普及活動の記録」の形で残している。

#### 宮城県石巻農業改良普及センター

被災直後、情報収集の記録は、みんなで毎日の活動を手書きでノートにまとめていた。情報収集に使ったノートは各センターで保管されているはずであるとのことであった。

#### 宮城県仙台あるいは亶理農業改良普及センター

公用車を使い動ける範囲で動き、津波による施設の被害状況など、記録に残るようできるだけ多くの写真をとった。それらの写真により現場の状況を、仙台の農業振興部、県庁で共有した。

#### 福島県相双農林事務所

県が最初に農家へ向けて営農に関する情報を発信したのは、平成23年3月25日の「農家の皆様へ」という文書。同日付けで「農業技術情報」第1報、第2報、第3報と版を重ねた（これらについてはコピーを人手済み）。

このように、いろいろな所にいろいろな形で、記録が保存されていることがうかがわれる。それらは、後世に教訓として伝えるべき貴重な記録である。アーカイブ特別委員会では、それらを収集、整理して、その全体をとりまとめることをめざしたが、力及ばずその目的を果たすことが出来なかった。収集に協力いただいた方々の意思に報いるためにも、当委員会メンバーとしては、収集した資料の提供等に協力したいと考えているので、別の機会に別の主体が東日本大震災の記録集の編纂に取り組んでくれることを期待してやまない。